

～グローバルコーヒー都市・釜山～

下関市総合政策部国際課
(釜山広域市派遣職員)

松村 康代

안녕하세요!

このたび下関市から釜山広域市へ派遣職員として着任しました松村と申します。今後ともよろしく願いいたします。

下関でもコーヒーの店舗、カフェがたくさんありますが、釜山でもコーヒーの店をよく見かけます。私が住んでいる釜山市庁(市役所)の周辺にも多くのコーヒー店が軒を連ね、気づけば私もコーヒーを飲んでいる毎日です。

以前にメッセ海外通信「韓国人がキムチよりも口にしているもの(2015年1～3月号)」で、韓国でコーヒーが好んで飲まれていると紹介がありましたが、韓国へのコーヒー輸入量は年々増加傾向にあり、今やコーヒーは文化のひとつとなっています。そのような中、釜山では、世界的なコーヒー都市への成長を目指しています。

というのも、釜山はコーヒー都市としての条件が多く揃っているからです。韓国国内へ輸入しているコーヒーの9割以上が釜山港から流通しており、焙煎所の拠点ともなっています。さらに、バリスタの世界大会では、釜山から優勝者を輩出しました。

釜山広域市としても、コーヒー都市・釜山のブランディングを強化する動きを見せています。2022年に韓国国内では初となるコーヒー産業に関する条例「コーヒー産業育成及び支援条例」を制定し、コーヒー産業基盤の造成、競争力の強化、地域経済と観光の活性化を推し進めています。また、今年に入り、産官連携のコーヒー都市釜山フォーラムが発足、来年の2024年には、「ワールド・オブ・コーヒー・アジア」展示会と、世界最高のバリスタ競技大会である「ワールド・バリスタ・チャンピオンシップ」が釜山で開催されることが決まっています。

このようにコーヒー都市として深化しつつある釜山では、実際に、お洒落でおいしいコーヒーのお店がいたるところにあります。その中で今回は、田浦(ジョンポ)と影島(ヨンド)を紹介したいと思います。ショッピングやグルメの中心である西面(ソミョン)駅から徒歩で行くことのできる田浦は、もともと工具商店街通りでしたが、2010年代から次々にカフェがオープンし、現在のようなカフェ通りをつくりました。個人経営のカフェが多く、さまざまなコーヒーの味を楽しむことができます。

もう一つのコーヒーエリアである影島(ヨンド)の蓬萊洞(ボンレドン)には、

コーヒーに特化したストリートがつくられています。影島は、造船鉄工所など造船関連の街ですが、工場や倉庫をリノベーションしたカフェがオープンし話題を呼んでいます。一見、倉庫にしか見えない建物の中に入ると、そこには素敵なカフェの空間が広がり、コーヒーを味わえるだけでなく、豆やグッズも購入できます。

釜山でマッコリやビールを飲んで楽しむのもいいですが、カフェめぐりでお気に入りの一杯のコーヒーを見つけてみるというのもいかがでしょうか。



↑ 影島のコーヒーストリート。左に倉庫のような建物が見えるが、実はカフェとして使われている。
← 田浦のカフェ通りの看板。